

## COCO 多治米（たじめ）着工しました@広島県福山市

一般社団法人自立と共生のくらし

代表理事 中川恵子

4月から福山大学の佐々木准教授にご助言をいただいた『グループリビング COCO 多治米』の設計図がこの度出来上がりました。

一部 2 階建ての平屋です。外観は、みんなが集うのが楽しくなるように明るく爽やかな建物にしよう！と話し合い、1 階建て部分の壁の色はシルクホワイト（白色）、2 階建て部分の色はアトランティックブルー（濃いブルー）、屋根はパールグレー（灰色）ということになりました。その日の天候や陽の当たり方でニュアンスに富んだいろいろな表情を見せてくれそうです。

個室は 8 部屋（居住定員 8 名）。共有部分は、LDK、浴室（2 室）、ランドリー室、図書室兼事務室、サロン、前庭に交流広場があります。2 階は普段はゲストルームとして使用しますが、災害時の一時避難場所としてのスペースも兼ねています。

居住者は共有部分（150 m<sup>2</sup>）を自分の家として自由に使えます。

- ・個室は 15 帖（25 m<sup>2</sup>）で、そのうちの居室部分（洋室）は約 8.5 帖、クローゼットと収納スペース（2 つ）がついています。
- ・ミニキッチンが IH、トイレは車いす使用ができるように広めです。
- ・洗面台は一般家庭用で、洗面・健康・化粧品などが置けます。
- ・ミニキッチン、洗面台ともに給湯付きです。
- ・個室の窓は掃き出しタイプで、どの部屋からも室外へ直接出ることができます。窓の外にプランターや鉢が置け、ちょっとした露地園芸もできます。
- ・床はフローリング、水回り部分はクッションフロアです。

- ・バリアフリー仕様の吊り扉です。
- ・浴室は中・小の2つ。浴室とトイレには手すりがついています。
- ・駐車場は 8 台分、駐輪スペース（約 10 台分）もあります。



## 1階 平面図



個室専有面積：15帖

\*\*\*\*\*

## NEWS

一般社団法人自立と共生の暮らし（代表理事 中川恵子）が7月28日グループリビングの起工式を行いました。おめでとうございます。

## 小島美里氏の本の出版と講演会開催のお知らせ

グループリビング運営協議会会長の小島美里氏が「あなたはどこで死にたいですか？ 認知症でも自分らしく生きられる社会へ」（岩波書店）を出版されました。

85歳を過ぎると4割、90歳を過ぎると6割の人が認知症になるなかで、住みなれた我が家で死にたいと願う人が多いです。超高齢社会を生きる私たちは、認知症になることを前提としたら、どこで最期を迎えることが望ましいのでしょうか。本では、そのために必要なサービス、かかるお金、そして介護保険制度の限界と今後について、実践者の目でみた様々な事例を通して書かれています。



直接、お話をきいてみたい、質問をしてみたい、と思われた方も多いかと思います。そこで、講演会を以下の日程で開催したいと思います。後日、チラシを配信する予定です。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加くださるようお願いいたします。

■日時 9月12日 19時~21時（月）

講演は1時間、講演後は質問や意見交換、近況報告などの懇親会を予定しています。

■開催方法 オンライン ZOOM

## 1. 「あなたはどこで死にたいですか？ 認知症でも自分らしく生きられる社会へ」を読んで

慶應義塾大学 SFC 研究所

近兼路子

最期を迎えたい場所に関する調査では、「自宅」と回答する高齢者が多く、その理由は、最期まで「安心」して「自分らしく」生きたいからだという。果たして、高齢期に「安心して自分らしい生き方ができる場所」＝「自宅」なのだろうか。長年、高齢者介護の現場にかかわってきた筆者の答えは明快である。現在の日本では、住み慣れた我が家は、一人暮らしか家族と同居かを問わず、高齢者とりわけ認知症を発症した人にとって、必ずしも安心して最期を迎えられる場所ではない。豊富な事例が示されており、その説明には説得力がある。

では、なぜ、「最期まで安心して、自分らしく生きる」という希望がかなわないのか。その要因は 2000 年に施行され、改正が繰り返されてきた介護保険制度を含む「介護制度」そのものにあると、筆者は、事例とデータを提示しつつ鋭く指摘する。

その上で、筆者は、介護サービスを使いやすくするための 8 つの修正点を示している。いずれも重要な項目であるが、そのうち、私が最も重要だと考えるのは、「個人加入の制度であることをはっきりさせる」という点である。介護保険は個人加入であるにもかかわらず、法改正により、同居家族の有無、世帯収入・資産などの「家族要件」が介護サービス受給の判断材料とされ、藤崎宏子（2009）が「介護の再家族化」と呼ぶ状況になっている。

本書でも挙げられている日本財団の調査や他の調査をみると、最期を迎える場所の選択において、人びとが重視しているのは、「家族に迷惑・負担をかけない」ことである。高齢期を「安心して、自分らしく生きる」ことには、「残される家族の幸せを願う気持ち」も含まれている。「超高齢社会」ともいわれる日本の介護制度は、こうした人びとの願いをかなえる方向に見直していくべきである。そのためには、筆者が呼びかけるように、私たち一人一人が「あきらめない」で社会を変えることに参加しなければならない。社会は変えられる。まずは、本書を手にとることからはじめてほしい。

## 2. 「あなたはどこで死にたいですか？ 認知症でも自分らしく生きられる社会へ」を読んで

NPO 法人いぶりたすけ愛

星川光子

この本は、認知症でも自分らしく生きられる社会へという、大きな問題を、事例をとおして、解り易く伝えてくれています。介護保険制度が抱えている問題を明らかにして、介護制度を見直す時が来ていることを示唆しています。

2000年、介護保険法が施行され、「介護の社会化」の一步であり、「選択権がある」ことを喜んだものです。1995年から任意団体として在宅サービス活動を続けていた当会も、NPO 法人となり、訪問介護、居宅支援事業を始めました。

しかし、この本に書かれているように、介護保険は改正するたびに複雑になり、「介護の社会化」は後退していくばかり。選択肢の一つでありたいと考えた、介護保険事業への参入でしたが、小さな事業所の運営は厳しい。また、ヘルパーの人材不足は深刻です。将来、介護を受けたくても受けられない時代がすぐそこまで来ていると感じています。

あなたはどこで死にたいですか？という問いかけは奥の深い問題です。85歳を過ぎると4割、90歳を過ぎると6割、95歳を過ぎると8割の人が認知症になるという現実を受け止め、福祉を、自分たち一人一人の問題として考える良い機会となってくれることを願います。一人でも多くの人に読んでもらいたい。そして、一緒に考えていきたい。

本を通して、“制度は変えられる。だから、あきらめない。”という小島さんの強い意志に感銘を受けました。介護に携わる者があきらめていいはずがありません。私も不安を嘆くだけの自分を反省し、できることを続けようという気持ちになりました。井手英策さんの「ベーシックサービス論」も購入しました。

小島さんに初めてお会いしたのは12年ほど前の「毎日介護賞」の授賞式。自分の意見を的確に話せる方だと、強く印象に残りました。新聞やテレビで活躍する小島さんの意見は、介護の現場の不安や、問題点を明確にして伝えてくれています。

介護の現場では様々な問題が日々起こっています。しかし、現場ではその問題の本質や制度を考える余裕もないのが現実です。小島さんのように、問題提起できる人は貴重な存在です。私たちの代弁者として、さらに活躍してくれることを期待しています。

## 2022 年度定例総会について

今年度の総会について、10月中旬頃に開催したいと考えています。今年度、これまで10年近く続いた公益財団法人 JKA の補助事業が採択されなかったため、新たな補助先を探し応募を行っています。春先に応募したハウジング&コミュニティ財団の補助は残念ながら取得できませんでした。また、現在、ニッセイ財団高齢社会助成に応募中です。結果が9月中に発表されますので、その結果次第で今年度の事業を決定した方が良いと判断いたしました。

ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

## グループリビング運営協議会メンバー募集中

グループリビング運営者はもとより、これから作りたい人、応援したい人、研究したい人、またグループリビングという名称に拘らず、グループリビングに類似した共生の住まいも対象にしております。

### 【活動内容】

1. グループリビングへの支援・相談
2. ワークショップの開催
3. ホームページの運営
4. グループリビングの調査研究
5. その他、本協議会の目的を達成するために必要な事業。

\* 詳細は以下の URL にあります。 <http://glnet-groupliving.org/glnet/glnet-recruit>

### 編集後記

福山のグループリビングが着工しました。竣工が楽しみです。早くコロナが終息し、見学会を開くことができるといいですね。ところで、みなさんは、YouTube をご覧になっているでしょうか。テレビで動画サービスを視聴している人を対象に、民放番組と YouTube の動画サービスの視聴時間をきいたアンケートの結果では「115.2分/日(49.2%)」のに対し動画サービスが「118.9分/日(50.8%)」と、動画サービスがわずかに上回っています。私も今は動画サービスが80%ぐらいになっているのではないかと思います。主に、みているのは趣味の登山関連です。依然主にはHPで登山の情報を見ていましたが、Youtubeの割合が増えています。この理由は、民放番組よりも自分のニーズに沿ったものがみつかるからことや、雰囲気などを知るためには動画が優れているからだだと思います。そんな時に宮野先生から YouTube でグループリビングを紹介しては、という提案がありました。YouTube でつくれる、住まいの様子や暮らし方が伝わりやすいので、入居の促進やグループリビングを知ってもらうことにつながるのではないかと考えています。今年度事業計画で提案する予定です。(な)

編集委員 小島美里 土井原奈津江